

10月 北総いきいきウォーク

新京成線一駅の旅「北習志野駅～高根木戸駅」せせらぎの道 7 km

自由歩行（IVV を交付します）

（コースリーダー 佐々木 のぶ子） 問い合わせ先 ☎ 090-9837-9512（佐々木）

日 時／10月24日（土） 9時00分～9時30分受付（受付終了後 順次スタート）

集 合／北習志野近隣公園（新京成線 北習志野駅 徒歩6分）（※お弁当不要）

解 散／10時～11時30分迄 時間厳守 高根木戸近隣公園
（新京成線 高根木戸駅 徒歩10分）

参加費／北総歩会員無料・CWA 加盟団体会員300円

コース／北習志野近隣公園（WC）～千葉日大第一高・中グラウンド前～せせらぎの道～坪井近隣公園（WC）～坪井の森緑地～
小さな橋～高根木戸近隣公園（WC）



○みどころ せせらぎの道はかつて坪井川が作り出していた水辺の環境のイメージを継承するために復元されたとか、小さな流れのそばに様々な樹々、花木が思い思いに枝を伸ばしています。「ホタル池」も奥にひっそりと。歩くスピードをおとしてせせらぎの道を散策・・・自由歩行ならではの楽しみですね。

北習志野駅では一部の役員と参加者は東葉高速鉄道の方に行って迷った方がいました
が時間までには全員集合 邪魔にならないようにミーティングです。



簡単なスタンドミーティング後にスタート地点の北習志野近隣公園に向かいました。

写真はコロナ対策用の受付風景で今回の参加者数は**67名**でした。



ついて直ぐ**誘導・矢貼り担当4名**はすぐスタートです。



今回メインの**せせらぎの道**を歩いている所です。自転車が来なければ歩きやすい道です。



誘導ポイントの**坪井の森緑地**の曲がり角岩佐商店の角に立ちます。ここは抜け道になっているのでごく交通量が多い所で立つ位置に困りました。
参加者が横断歩道を渡ってきます。



アンカーが予定通り10時30分頃到着。すぐ前に最後の参加者がいらしたので坪井緑地で5分間ぐらい休憩してからゴールに向かいます。



総勢 **67名の参加者**は全員迷うことなくゴールの**高根木戸近隣公園**に到着し、



少し遅れてアンカーも11時15分位は到着です。

北総歩こう会としては初めての場所で参加者にとっては初めて歩く方が多くわかりやすい道だったので迷うことなく歩くことが出来ました。

ご参加いただき有難う御座いました。

投稿担当 遠藤啓一

☆ 10月例会ウォーク 歴史公園と古寺を巡る 10km 自由歩行

(コースリーダー 染谷 勇) 📞090-7191-1863(染谷)

日 時／10月18日(日) 9時00分～9時30分受付(受付終了後 順次スタート)

参加費／北総歩会員・CWA加盟団体会員 無料

集 合／新松戸駅前広場(JR 常磐線・武蔵野線 新松戸駅徒歩1分)

解 散／11時00分～12時30分迄 時間厳守 新松戸駅前広場(集合場所に同じ)

コース／新松戸駅前広場(WC)～大谷口歴史公園(WC)～広徳寺～医王寺～本土寺(WC)～東雷神社～東漸寺～幸谷観音～赤城神社～新松戸駅前広場(WC)

〇みどころ 千葉氏の一族から出た高城(たかぎ)氏が築いた小金城跡の大谷口歴史公園「あじさい寺」「紅葉寺」として親しまれている建治3年(1277年) 建立された日蓮宗のお寺「本土寺」(10月入場無料)などを訪ねます。

前日が終日12月上旬の気候になり、寒く雨の一日で心配しておりましたが雨も上がり晴れ間から暖かい日が差す絶好のウォーキング日和となりました。本日は10月最初の北総歩の行事「例会」の日です。受付開始前から参加者の皆さんが集まってきたため、受付を10分ほど早めて開始しました。受付を開始するとほどなく長蛇の列になり、改札前まで並んでしまい、駅からのクレームが来ないかと心配をしながらの受付でした。好天になったためか参加者が続々と来られ、検温、手指消毒、受付けを済ませ「152名」の皆さんが順次「自由歩行」でスタートして行かれました。



新松戸駅改札前の広場での受付をしている参加者



受付が一段落して次の参加者を待つ役員（全員フェイスシールド、マスクを着用しています）。



先行して、スタート、誘導位置に向かう役員（大谷口歴史公園前）



本土寺境内に立つ「五重塔」



本土寺の山門



東斬寺境内を歩く役員の皆さん



福昌寺境内(幸谷観音側)にある庚申塔(松戸市文化財指定)

左側が松戸市で一番古いと認定された庚申塔



ゴールに向かって歩く参加者の皆さん





参加者の後を歩く役員（赤城神社）

ゴール制限時間30分前には全員が無事に完歩して、「今日のコースは良かった」「楽しく歩けた」などの声を頂くことが出来て、担当役員、支援役員の皆さんもホッとしました。有難うございました。

投稿担当 竹渕房夫